

## 「地域交通に関するアンケート」実施報告書 要約版

### 1. アンケート実施の目的

私達が住むこの芹田地区でも、早晚このままの地域交通では毎日の暮らしそのものが成り立たなくなるのではとの危機感から、当検討委員会では他地域における先進事例と実証実験なども参考に研究を始めていますが、並行して「皆様の交通手段の現状」並びに、「現時点で皆様ご自身がこの交通課題をどう捉えているか」について確認する必要があると考え、当アンケートを実施しました。

### 2. アンケートの集計対象等

アンケート用紙を芹田地区の全 12,657 世帯に 1 枚ずつ配布した結果 2,654 枚回収でき、回収率は 21%となりました。

また、集計は「地区別」の外、下記「世帯構成別」 5 ケースにしました。

- |                        |                          |
|------------------------|--------------------------|
| ①高齢者(70 代以上)を含む世帯      | ②(70 代以上の)高齢者のみの世帯       |
| ③子どもがいる若い世帯(親は 40 代まで) | ④(30 代から 50 代の)働き盛りのみの世帯 |
| ⑤(80 代以上の)超高齢者のみの世帯    |                          |

### 3. 集計結果から（個別の詳細は本編を参照願います）

#### (1) 世帯構成に関する人数比率の特記

- 「高齢者(70 代以上)を含む世帯」が、人数比率 47.4%で約半分を占める。

#### (2) 交通手段・頻度

◇自家用車利用は、

- 「子どもがいる若い世帯」と「働き盛りのみの世帯」が多く、やはり高齢者は少なめ。
- 地区別では川合新田地区がダントツで、次いで中千田地区の順。

◇「子どもがいる若い世帯」では

- 通学もあるため、全体的に自転車と徒歩が多いのは頷ける。
- 通勤では自家用車と自転車が、また通学には自転車と徒歩が多く、逆に自家用車の使い方では、最多が通勤、次いで買い物と子どもの送迎の順。

◇高齢者のみの世帯では

「70 代以上の高齢者のみの世帯」では自家用車利用が多いが、「80 代以上の超高齢者のみの世帯」になるとその利用距離は 1/3 近くになるとともに、それをカバーするためかタクシー利用が増える。

◇タクシー利用は

- 「80 代以上の超高齢者のみの世帯」が最多で、目的は通院。
- 「働き盛りのみの世帯」のタクシー利用はほとんど無い。

◇バス利用は

- 地区毎に大きな差異があり、目的別を合算すると、中千田地区がダントツで、次いで若里中央地区と若里西町地区がほぼ並んだ。

(3)伊那市の事例は

- ・世帯構成を問わず「積極的に使いたい」よりも「ケースによっては使いたい」が格段に多いが、それらを合計すると 70%~81%であり、特に「子どもがいる若い世帯」では 100%の地区もあって期待度はかなり高い。

(4)豊島区の事例は

- ・伊那市事例同様に、「積極的に使いたい」よりも「ケースによっては使いたい」が格段に多い。
- ・「子どもがいる若い世帯」では特に期待度が高く(地区によっては 100%)子どもの送迎を想定したのではと推測。
- ・「高齢者のみの世帯」では最大値が 58.3%で期待度は低かったが、これはスマホ利用に対する忌避感と、アンケート用紙上の説明が不十分だったかも知れないと推測。

(5)タクシー代

- ・「働き盛りのみの世帯」は少し低いが、他の世帯構成でタクシーを使う方は、平均して月額 4,5 千円程度。

(6)要望・お困りごとは

- ・世帯構成に関わらず 30%以上が「バスの本数が少ない」との回答だった。
- ・世帯構成と地区を問わず、ほぼ半数が「タクシーは便利だが高い」と感じている。
- ・「通院・買い物時に定額で乗りたい」の希望は高齢になるほど強く、領けるところ。

#### 4. 自由記述のご意見では

合計 426 件のご意見をいただき、ここにこそ皆様の本音が端的に表現されていると見るのが妥当と考えますが、重複するご意見も多く、主たるポイントは下記の通り。

- ・「まだ車に乗れるため、乗れなくなったら考える」との回答が多い一方で、免許返納他で「既に困っている」との記述もある。
- ・芹田地区社会福祉協議会が運行する福祉自動車については、「不公平では?」「継続性は?」等、事業自体を疑問視する記述があった。
- ・バス運行については、「そもそも路線がない」「本数が少ない」「終バスが早すぎる」等が多数。
- ・タクシー運行については、「予約が取りづらい」「料金が高い」等の他、運転手不足を不安視するご意見も。
- ・伊那市方式については、利用できる対象者を広げるべきとのご意見がある。
- ・豊島区方式については、高齢者がスマホ操作ができるかと懸念するご意見が多い。
- ・高齢者の通院・買い物等では、バスを利用すると目的地との 1 往復に停留所との間を都合 4 回歩くことになるため、「料金面を含め、気兼ねなくタクシーを利用できるとありがたい」との記述が多い。
- ・ぐるりん号には、ルートの見直し・新設の期待とともに、どこででも乗降できる地域内循環型バスへの期待が大きい。
- ・長野市の「おでかけパスポート」を歓迎しているご意見は多かった。
- ・最も多かったのは、「料金面も含め、交通弱者にとって使い勝手の良い地域交通を早く」の記述であり、またその実現に向けては、“芹田地区独自にでも”とのご意見もあった。

## 5. 所感及び今後について

アンケートの結果は、皆様の現在の“困り度”並びに“将来への期待”等について、当検討委員会のこれまでの想定を包括的に裏付ける結果であったと判断しました。

この芹田地区は、長野市の中で生産年齢人口(15~64歳)の構成比率がトップ、即ち若い世代が最も多い地域であるとともに比較的長野駅にも近いことから、特に若い世代では、近い将来の地域交通に対する切迫感に若干欠ける面があるかもしれません。

しかし、高齢になると「傘1本持つて300m歩くのが大変で途中にベンチが欲しい」との声を聞くこともあり、この地域交通問題は山間僻地だけの話ではなく、中心市街地でも抱える課題は全く同様と考えるべきです。

そのような中、例えば視察した塩尻市のAI活用型オンデマンドバス「のるーと塩尻」がほぼ全市をカバーできることになる現在までに既に20年以上費やしてきたことを考えると、住民重視の地域交通を本格的に根付かせるには、膨大なエネルギーと地域住民の理解が必要であると痛感します。

ただ、我々には、参考にできる多くの先進事例があり、また国内各地で実証実験を行なっている先達もたくさんいるため、その「良いとこ取りができる」という大きなアドバンテージがあります。

そこで、当芹田地区でも、近未来に出現するであろう(運転免許不要の)完全自動運転モビリティが普及する“次々世代までの繋ぎ”となる地域交通について研究・検討の上、早急に、実現に向けた行動を起こす必要があるものと考えます。

以上

## アンケート内容

### 1. お住まいの地区を教えてください (1ヶ所に○を)

- ① 栗田 ② 七瀬 ③ 七瀬中町 ④ 七瀬南部 ⑤ 北中  
 ⑥ 北市 ⑦ 南市 ⑧ 荒木 ⑨ 若里中央 ⑩ 若里西町  
 ⑪ 上千田 ⑫ 中千田 ⑬ 南俣 ⑭ 母袋 ⑮ 日詰  
 ⑯ 川合新田 ⑰ 川合新田団地

### 2. 世帯の年齢構成を教えてください

人数→	0~10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代~

### 3. 外出目的別の交通手段・頻度を教えてください(片道を1回とし、1ヶ月分をお答えください)

	自家用車 (1ヶ月分の走行距離)	バス(回数)	タクシー(回数)	自転車(回数)	徒歩(回数)	その他(回数)
① 通勤	km	回	回	回	回	回
② 通学	km	回	回	回	回	回
③ 通園	km	回	回	回	回	回
④ 通院	km	回	回	回	回	回
⑤ 買い物	km	回	回	回	回	回
⑥ 習い事	km	回	回	回	回	回
⑦ 子供の送迎	km	回	回	回	回	回
⑧ その他	km	回	回	回	回	回

### 4. 下記事例1【伊那市】のような制度があつたら使いたいと思いますか (1ヶ所に○を)

- ① 積極的に使いたいと思う ② ケースに応じて使いたいと思う ③ 思わない

### 5. 下記事例2【豊島区】のような制度があつたら使いたいと思いますか (1ヶ所に○を)

- ① 積極的に使いたいと思う ② ケースに応じて使いたいと思う ③ 思わない

### 6. 下記事例2【豊島区】を使いたいと回答した方にお尋ねします

現在、毎月どの程度の負担をしていますか

- ① バス・タクシーを利用している方(金額で)  円  
 ② 自家用車を利用している方(走行距離で)  Km

### 7. 交通政策、交通網等についての要望・お困りごと等を教えてください(複数回答可)

- ① バスの本数が少ない ② バス停が近くにない  
 ③ バスの昇降がつらい ④ タクシーは便利だが高い  
 ⑤ 通院・買い物などの場合、距離に関係なく定額で乗りたい  
 ⑥ その他(自由記述)

#### 事例1【伊那市】

- ・JR伊那市駅を中心に7Km四方の市街地に住む「免許返納者・障がい者・65歳以上の高齢者」がタクシーを利用した際、250円または500円を超す分は市が負担する制度で令和5年4月から実施した。
- ・市中心街の範囲内での乗降に限られ利用日時に制限があるが、利用目的は問われない。
- ・2020年度にスタートした市周辺部での乗合タクシー制度に加えた制度で、タクシー会社からも歓迎されている。

#### 事例2【豊島区】

- ・半径2Km圏・定額乗り放題オンデマンドシステム「mobi」を実証実験中。
- ・このシステムは、一般利用者の他、高齢者・障がい者・小児連れなど交通弱者を含む全住人向けの新たな公共交通。
- ・半径約2kmの運行エリア内でスマートフォンのアプリや電話で配車予約し、エリア内の仮想停留所<sup>\*1</sup>間を相乗りで運行する移動サービスで、エリア内定額乗り放題。若いお母さんが子供の保育園往復に毎日使っている例も紹介されている。
- ・利用料金は、30日間定額乗り放題プラン5,000円、1回利用 大人300円・子供150円等。
- ・この「mobi」は全国あちこちで実証実験が行われていて利用者からの評価は高いものの、現時点では運用コストが大きいとして継続性に対する判断が割れている段階。

<sup>\*1</sup>利用頻度が高い場所に予め設定したネット上の停留所